

むくのきだより 12月号



令和6年11月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

人権週間 ～友達との関わりで学ぶ～

園長 中村 美奈子

赤羽幼稚園の園庭で、サツマイモの収穫をしました。自分の顔より大きいサツマイモがたくさんとれて、子供たちは大喜び。サツマイモを水で洗うと、紫色にぴかぴか光って見えます。さくら組の子供たちは、絵の具を使って美味しそうなサツマイモを描きました。とても長いつるでつながっていたサツマイモ。つるをくるくるまいて、リースになりました。間に花や草をさして見せてくれる子もいました。素敵な飾りができそうです。園庭にも冬の風が吹くことも増えてきましたが、子供たちは元気に遊んでいます。大きなカマキリやミズをつかまえたり、サッカーや縄跳びをしたりしています。

毎日、友達と過ごしていると、いろいろな出来事があります。Aさんが端にイスを持ってきて座りました。Bさんがやってきて、Aさんの隣りにイスを並べて座りました。そこに、Cさんがイスをもってやってきました。CさんもAさんの隣りに座りたくて、Bさんに「いーれーてー。」と言いました。でも、BさんもAさんの隣りに座っていたいので、「いいよ。」とは言えません。このようなとき、周りの大人はどのような声を掛ければよいのでしょうか？

「Bさん、Cさんが『入れて』って言うてるよ。」「いつもBさんが隣だから、Cさんに譲ってあげたら？」「Cさん、先にBさんが座っていたから違う場所にしましょう。」「BさんとCさん、じゃんけんで決めたら？」等々、いろいろな声掛けが思い浮かんだのではないのでしょうか。実際は、担任は少し離れて見守り、すぐに声は掛けませんでした。すると、Bさんが「だめ。」と言ったので、Cさんがさらに「いーれーて！」と強くお願いし、BさんとCさんが、その場所がいいことを伝えあう会話が続きました。そして、近くの子が「BちゃんもCちゃんも、Aちゃんの隣りがいいの？」と声を掛けました。また、「ここも近いよ。」とAさんの後ろの場所を勧める子や、「こっちがいいんじゃない？」と別の場所を勧める子もいます。やがて、Cさんは別の場所に座り、そのあとの活動は楽しそうに過ごしていました。

友達と関わる中で、自分の思いが伝わらないことや、思いがすれ違ってけんかになることもあります。解決する方法を教えたり気付かせたりすることは、もちろん大切です。しかし、いつも大人が子供の気持ちを先取りして解決してしまうと学ばません。これからも、自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたり、一緒に考えたりする経験がたくさんできるように工夫し、互いを尊重し認め合う人間関係の基礎を育てていきます。

「誰か」のこと じゃない。



人権週間

12月4日～10日

12月4日～10日は、「人権週間」です。

12月には人権に関する大きな取組があります。それは、「人権デー」と「人権週間」です。

私たちは皆、自分の存在と尊厳が守られ、自由に幸せを追い求めることのできる権利「人権」を持っています。

しかし、いじめや虐待など、他者の人権を考えないような問題が後を絶ちません。私たちは家庭や地域、職場、学校などで多くの人と関わり合いをもって生きています。その中で、一人一人が自分らしく、他の人たちとともに皆が幸せに生きていくためには、互いの個性を尊重し、認め合うことが必要です。そして、誰もが幸せに暮らせるよう、互いを思いやり、生活習慣・文化・価値観などの多様性や人権を尊重する社会を築いていくことが大切です。

そこで、法務省と全国人権擁護委員連合会が、毎年12月10日の「人権デー」を最終日とする1週間(12月4日から同月10日まで)を「人権週間」と定めています。今年度の「第74回人権週間」では、啓発活動重点目標を「誰かのことじゃない」として、様々な活動が行われます。港区においても、12月8日に記念講演と映画のつどいがあります。

赤羽幼稚園においても、友達の気持ちを考え、互いを認め合える機会を積極的につくり、互いの個性を尊重し、認め合うことができるようにしていきたいと思います。